

研究種目：基盤研究(B)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19320113  
 研究課題名（和文）北・東北アジアにおける社会・文化変容の研究—同じルーツをもつ人々と「国境」—  
 研究課題名（英文）Research in social and cultural Transformation in North and Northeast Asia - peoples who having the same roots and the "borders" --  
 研究代表者  
 加藤 直人 (KATO NAOTO)  
 日本大学・文理学部・教授  
 研究者番号：90130468

研究成果の概要（和文）：「国境」が北・東北アジアに暮らす同じルーツをもつ人々に対し、どのような文化・社会変容をもたらしたのか。本研究では、3年間にわたりロシア、モンゴル、中国、カザフスタンで調査を実施し、たとえば、いまだに強い「モンゴル人」というアイデンティティを有する人々に、「国境」はどのような意味を持つのか、政治的に区画された中でどのような変質がみられたのかという問題を検討した。

研究成果の概要（英文）：How did "the border" that was a political product force cultural and social transformation on the people who had the same origin lived in north and northeastern Asia? For example, we studied how was "the border" recognized among the Mongolians who strongly maintained identity. Besides, we studied how did the Mongolian transform in these areas sectioned by "the border".

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2008年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総計	15,300,000	4,590,000	19,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：北アジア、東北アジア、文化変容、社会変容、国境、条約、ロシア、モンゴル

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者および分担者は、平成 11 年度より平成 17 年度までの 7 年間、科学研究費の補助を受けて中国、内モンゴル、中

国東北、ザバイカルを中心とするシベリア、ブリヤート、ロシア極東等において歴史文献調査と現地資料調査を実施してきた。また、文書史料とくにロシア外交史料ならば

に清朝の文献史料についても研究をすすめてきた。それらの調査・研究背景のもと、(1)北・東北アジアに暮らす人々にとって、「国境」というものはどのような存在であったのか、(2)「国境」によって区画された空間のなかで、同じルーツをもつ人々がどのような文化・社会変容をとげたのかという問題を感じるようになった。われわれは実地調査と文献、とくに文書研究に実績を有していたので、その両者を融合した形でこの問題を解明しようと考えたのが、本研究の動機である。

## 2. 研究の目的

本研究の対象は、中国、モンゴルおよびロシアの境界地域に暮らす人々である。周知のとおり、現在、この地域では「国境」をはさんで同じ系統に属する人々がそれぞれの生活を営んでいるが、それらの人々の差異等については、とくに歴史的観点から十分な検討が加えられたことはない。本研究では、歴史的・政治的に設定された「条約」をキーワードとして、(1)それに含まれる国境画定、すなわち空間の制限が、当該地域に暮らす人々に及ぼした変化、なかでも文化的な変容、(2)条約に含まれる「通商」関連条項等が、当該の地域社会に与えた変化、具体的には、人的、物的、そして財産等の移動が与えた変化について、文献研究と現地での資料収集をもとに検討を加えることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究の対象は、中国、モンゴルおよびロシアの境界地域に暮らす人々である。周知のとおり、現在、この地域では「国境」をはさんで同じ系統に属する人々がそれぞれの生活を営んでいる。本研究では、歴史的・政治的に設定された「条約」をキーワードとして、(1)それに含まれる国境画定、すなわち空間の制限が、当該地域に暮らす人々に及ぼした変化、なかでも文化的な変容、(2)条約に含まれる「通商」関連条項等が、当該の地域社会に与えた変化、具体的には、人的、物的、そして財産等の移動が与えた変化について、文献研究と現地での資料収集をもとに検討を加えた。具体的には、各年度ごとに、研究対象となる「条約」を、「キャフタ条約(1727年)」及び「キャフタ協定(1915年)」、「タルバガタイ条約(1864年)」及び「イリ条約(サンクト・ペテルブルグ条約)(1881年)」、「愛琿条約(1858年)及び北京条約(1860年)」とした。この設定に応じて、研究分担者をその研究専門分野にあわせ、それぞれ、「ロシア・モンゴル班」(中見立夫、柳澤明)、「内モンゴル班」(細谷良夫、杉山

清彦)、「天山北麓、アルタイ班」(華立、楠木賢道)、「中国東北班」(江夏由樹、松重充浩)の4班に分け、研究代表者(加藤)がそれを統括して研究を進行するかたちをとった。

## 4. 研究成果

研究計画に基づき、中国、内モンゴル、中国東北、ザバイカルを中心とするシベリア、ブリヤート、ロシア極東等において歴史文献調査と現地資料調査を実施し、その成果を公にした。その一方、中国社会科学院近代史研究所の劉小萌研究員を招いて、「清代北京におけるロシア人」と題して特別講演(日本大学文理学部)をお願いする一方、中国・モンゴル両国にまたがるアルタイ地区に生活するウリヤンハイ人に聞き取りを行った。その成果は、研究代表者が「新疆北部およびアルマトイ現地調査報告」(『満族史研究』第8号、2010年)と題して公表するとともに、連携研究者の柳澤明が「新疆モンゴル人探訪記」(『早稲田大学モンゴル研究所紀要』第5号、2009年)として詳細な報告を発表するなど、研究成果の社会還元にも積極的に対応している。その他、ウラジオストク周辺における「民族」関係資料の収集等を実施した。その成果として、平成21年5月に、研究分担者の中見立夫を中心として、東方学会主催の第54回国際東方学会会議において「清朝とその隣邦」というパネルを開き、国内外からきわめて多くの参加者を得た。これら実地調査のほか、清代文書史料の研究において、研究代表者は、過去に科学研究費の補助を受け(後述)、とくにロシア外交で用いられた清朝の第一公用語、満洲語で記された文献、とくに中国第一歴史档案馆に所蔵される清初の公文書「内国史院档」の天聰八年分を翻訳して出版(『内国史院档 天聰八年』東洋文庫、2009年)するなどの研究を行い大きな成果を得た。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

- ① 松重充浩「営口」、安富歩・深尾葉子編『満洲の誕生』(名古屋大学出版会)、査読なし、2009、pp. 327-364.
- ② 華立「清代イリにおける民人社会の形成とその諸相」、『イリ河流域歴史地理論集—ユーラシア深奥部からの眺め—』(窪田順平・承志・井上充幸編、松香堂)、査読なし、2009、pp. 107-113.

③柳澤 明「清代モンゴル東部辺縁地域における「民族」の接触と変容 —嫩江中流域の旧八旗地帯を中心として」『内なる他者＝周辺民族の自己認識のなかの「中国」：モンゴルと華南の視座から』（岡洋樹編）、査読なし、2009、pp. 83-100.

④楠木賢道「編入清朝八旗の拙魯特部蒙古族」（『中国辺疆民族研究』第2輯）査読あり、2009、pp. 360-366.

⑤加藤直人「関于美国国会図書館収蔵の清代档案」『明清档案与歴史研究論文集 慶祝中国第一歴史档案馆成立80周年』上冊（北京・新華出版社）、査読なし、2008、pp. 121-126.

⑥江夏由樹「近代東部内モンゴルにおける蒙地の払い下げ—日露戦争後、土地利権争奪をめぐる中国と日本の官民関係—」『清朝史研究の新たな地平』（細谷良夫編、山川出版社）、査読なし、2008、pp. 334-357).

⑦華 立「清代トルファンの内地移民社会—乾隆～咸豊年間の事例を中心に」『清朝史研究の新たな地平』（細谷良夫編）査読なし、2008、pp. 188-212.

⑧杉山清彦「大清帝国のマンチュリア統治と帝国統合の構造」『近代東北アジアの誕生—跨境史への試み』（左近幸村編著、スラブ・ユーラシア叢書4、北海道大学出版会）、査読なし、2008、pp. 237-268.

⑨NAKAMI, Tatsuo: Qing China's Northeast Crescent: The Great Game Revised, *The Russo-Japanese War in Global Perspective: World War Zero, Volume II*, 査読有り、Leiden, 2007, pp. 513-529.

⑩中見立夫「“内モンゴル東部”という空間—東アジア国際関係史の視点から」『アジア地域文化学叢書VIII：近現代内モンゴル東部の変容』（早稲田大学モンゴル研究所編、雄山閣）、査読なし、2007、pp. 21-46.

[学会発表] (計2件)

①NAKAMI, Tatsuo; From 'Tartary' to 'Northeast Asia': Search for a Portion of 'Asia', *International Conference "Asia in the Changing world: Looking Back and Forward"*, Seoul National University, September 23, 2009.

②KATO, Naoto; On some Manchu documents concerning the people of the Great Xing-ng-ling Region, *Workshop: Mapping*

*the history of Northeastern Asia*, Australian National University, 29, Oct. 2008.

[図書] (計3件)

①楠木賢道、加藤直人、中見立夫、細谷良夫、松村潤編、東洋文庫、『内国史院档 天聰八年(本文、索引・図版)』(全2冊)、2009、xxvi+413、417-709.

②楠木賢道著、汲古書院『清初対モンゴル政策史の研究』2009、304.

③細谷良夫編、山川出版社、『清朝史研究の新たな地平』2008、359.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加藤 直人 (KATO NAOTO)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号：90130468

### (2) 研究分担者

松重 充浩 (MATSUSHIGE MITSUHIRO)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号：00275380

### (3) 連携研究者

細谷 良夫 (HOSOYA YOSHIO)  
東北学院大学・名誉教授  
研究者番号：50042164  
(H19：研究分担者)

中見 立夫 (NAKAMI TATSUO)  
東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授  
研究者番号：20134752  
(H19：研究分担者)

江夏 由樹 (ENATSU YOSHIKI)  
一橋大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：10194002  
(H19：研究分担者)

華 立 (HUA LI)  
大阪経済法科大学・教養部・教授  
研究者番号：20258081  
(H19：研究分担者)

柳澤 明 (YANAGISAWA AKIRA)  
早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：50220182  
(H19：研究分担者)

楠木 賢道 (KUSUNOKI YOSHIMICHI)  
筑波大学・大学院人文社会科学研究所・

准教授  
研究者番号：50234430  
(H19：研究分担者)

杉山 清彦 (SUGIYAMA KIYOHICO)  
駒澤大学・文学部・准教授  
研究者番号：80379213  
(H19：研究分担者)